

令和8年度 教育委員会・学力向上担当 年間業務スケジュール

情報を適宜迅速正確に発信し、各学校の教育活動を支援するよう行動します

【花巻市ホームページ】

<時期 重点>

【学校】

ご覧いただいていますか？

会議・研修会・学校訪問等で情報・支援の提供

<4～5月 計画を共有し行動・実践に向かいましょう>

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>計画・指針等>令和8年度花巻市学力向上アクションプラン

●令和8年度花巻市学力向上アクションプラン● 学級力・授業力・家庭力の向上

学校経営・学校運営充実に向けた年度当初学校訪問
家庭・地域の理解・協力をいただくためのPTA等説明 (R6～重視)

<5～2月 改善に向けて要となる行動・実践のときです>

児童生徒講話 (中1 悉皆・R6～小5 重点) 保護者講演 (低学年重点) 教職員講義 (R6～重視)

児童生徒個別指導・保護者個別相談・教職員個別研修
学校経営・学校運営充実に向けた随時学校訪問・各種調査等
夏季ふくろうラボ等企画運営、その他各種会議・研修対応等
全国学調等学力・意識調査分析・情報提供等

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>令和7年度全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況

●令和7年度全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況● 改善の兆し

(令和8年度版は10月初旬更新予定)

冬季ふくろうラボ等企画運営、その他各種会議・研修対応等
県学調等学力・意識調査分析・情報提供等

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>令和7年度岩手県学習定着度状況調査から見える花巻市の状況

●令和7年度岩手県学習定着度状況調査から見える花巻市の状況● 改善の兆し

(令和8年度版は1月初旬更新予定)

<2～3月 1年間の行動・実践を振り返り次年度に備えましょう>

標準学力検査CRT等学力分析・情報提供等
学力保障に係る年度末評価
学力向上アクションプラン、家庭教育スタンダード等次年度計画

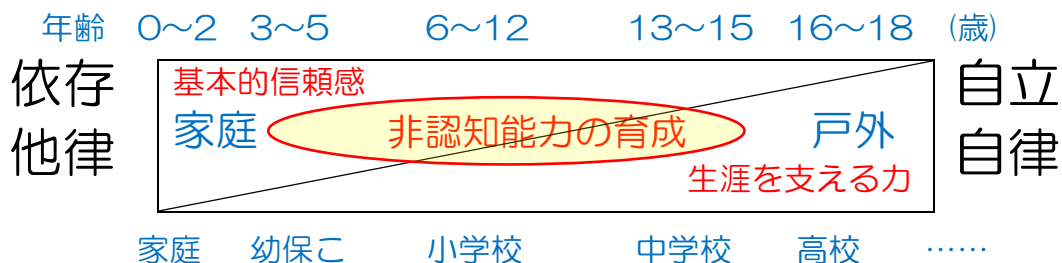
学力向上担当による「講話・講演・講義等」の基本的な考え方

- 令和6年度以降、学力向上担当の「講話・講演・講義等」を次のように拡充して実施してきました。

項目	児童生徒対象	保護者等対象	教職員対象
全体対応	講話 「小中学校期に身に付けたい生活・学習習慣」 ●中1講話は 悉皆 実施(所要時間:1単位時間) ◎小5講話は 可能な限り 実施(所要時間:1単位時間) ○上記以外の学年・学級講話は学年・学級の実態に応じ 希望 実施(所要時間:1単位時間)	講演 「巻き戻して見える子育て、教育のポイント」 ◎PTA役員会・PTA総会・授業参観日PTA研修会・教育懇談会等での講演は 可能な限り 実施(最低所要時間:15分、30分程度) ○学年・学級単位の保護者講演は 希望 実施(最低所要時間:15分、30分程度)	講義 「生徒指導の機能を生かす授業改善の方策」 ●管理職・主任等説明は学校訪問時に 悉皆 実施(所要時間:1時間程度) ◎校内研究会は 可能な限り 実施(所要時間:1単位時間) ○学年・学団・教科等各種研修会対応は 希望 実施(所要時間:1単位時間)
個別対応	指導 「算数・数学、英語の基礎基本を定着する学習指導」 ○学級に入れない等、課題を有す児童生徒の学習指導	相談 「子どものやる気を育む家庭環境と親の関わり方」 ○子育て、家庭教育に悩みを抱える保護者等の教育相談	研修 「結果につなげる学級づくりと授業づくり」 ○学級経営、授業実践に課題意識をもつ教員の個別研修
パック対応	総合 (R7新規) R6実績を踏まえ、「多方面から同時に多様な対策を総合的に講じて、短時間で効率的・効果的に成果を生み出すことを目的とする取組」です。学校と協議・相談しながら、学校の実態・状況に応じて 講話・講演・講義・指導・相談・研修 を適宜組み合わせながら効果的に取組を進めます。		

- これらの取組は、次のような基本的な考え方に基づいて実施しています。

子どもの発育・成長



大人も子どもも、人は満足によって意欲が出ます。勉強でもスポーツ・文化活動でも、遠い理想を追いかけるより身近な目標を立て達成を繰り返す方がやる気につながります。他の子どもとの比較ではなくその子自身の成長を、大人のものさしではなくその子の発達に応じた視点で、きめ細かに看取り、その子の特質に応じて時に認め時に励ます親や先生など私たち大人の関わりが、小さな満足でも自分で自分を褒め、その積み重ねが励みや自信となり、やがて子どもは自分を適切に評価する自己評価の力を身に付け、自立に向けて力強く歩み出します。

依存から自立へ

様々な社会経験を重ね30代から教育に携わる仕事に就いた私は、「若者の教育に際しては、彼らが成長途上にあり未成熟であることを認識しなくてはならない。若者は、自由とともに管理、コントロールを求めている。このバランスを保ちながら若者を育てなければ、若者は幸せな成熟した大人に成長することはできない。自由と規律の調和、規律に裏付けられた自由を実現することが、若者を取り巻く我々大人に課せられた役割であり使命である。」と考えています。

他律から自律へ

- 具体的には、次のような子どもの生活、学習、生き方をすすめ、定着することを目指しています。

《子どもの生活》

同じ時間に起き、勉強し、寝る、子どもの生活リズムは一定にします。勉強は時間になったら自然に始め、10分間は続けます。いつしか集中してやる気になっている自分に気が付きます。人は睡眠中に記憶を整理・定着させるそうです。だから、夜更かし、徹夜は駄目です。覚えた直後より睡眠後の方が記憶が定着するそうです。だから、眠い時は我慢せずに布団に入って寝ます。テレビ、ゲーム、SNS……は親や自分との約束の範囲で使用することを徹底します。やがて子どもは自分を管理、コントロールする力が身に付き、自律できるようになります。テレビ、ゲーム、SNS……誘惑に満ちた難しい時代だからこそ、学校も家庭も地域も結束して将来を担う若者を守らなければなりません。

良い生活習慣を身に付けさせましょう

《子どもの学習》

中学生の頃から徐々に丸暗記が苦手になるそうです。知識はアウトプットで定着するようになるので、使う・思い出す学びが大切です。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が求められているのもそのためです。家庭学習では、マーカーや付箋、ノートや本の見直しだけでは受け身（インプットのみ）で記憶に残りにくいことから、例えば要点を書く、声に出す、説明する、反復テストで確認することが有効です。一夜漬けは効果が少なく忘れるのも早いので、その日か翌日に復習して思い出す訓練をし、1～2週間後に再度復習で仕上げをします。一気に詰め込まず、間隔を空けて繰り返すことが大切です。努力と成果は比例しないと考える人がいると思いますが、最初は伸びが鈍くても努力を続ければ後から大きく伸びるそうです。学びの効果は表れるまで3か月～半年かかるということです。嫌々な学びは身に付かないそうで、「なるほど!」「面白い!」「遊びに熱中!」の積み重ねが得意科目につながります。

効果がある学び方を身に付けさせましょう

《子どもの生き方》

自制心や意欲、忍耐力など非認知能力を高める取組が高学力、生きる力につながるそうです。認知能力を高めるには様々な場面で非認知スキルを重視することが大切です。例えば、自信を持つ、最後までやり抜く、自分の考えをしっかりと伝える、人の役に立つ、明るく前向きに取り組む、笑顔と良い姿勢がやる気と集中力につながります。日本の教育は生徒会活動や部活動が重視され、自然に非認知能力を高める取組が位置付けていましたが、これからは今まで以上に家庭や地域でも非認知スキルの育成を意識して子どもを育てることが大切です。

人としての有様を価値づけ広めましょう

- 以下の資料は、児童の皆様向けの講話、生徒の皆様向けの講話、保護者の皆様向け講演、教職員の皆様向けの講義の要点を記載したものです。市内児童生徒の健全育成と学力向上に向けて、それぞれのお立場から活用していただければ幸いです。

児童生徒の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様、

笑顔になりましょう。自信を持ちましょう。勇気を出しましょう。

違うものは違うと言いましょ。おかしいことはおかしいと伝えましょ。一緒に前を向いて進みましょ。

皆で正しい道を探しましょ。皆で大切な道を歩みましょ。皆で子どもの力を育みましょ。

身に付けてお得な小学校期の生活・学習習慣

花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

第1問 落ち着かない学級になると、学力はどうなる？

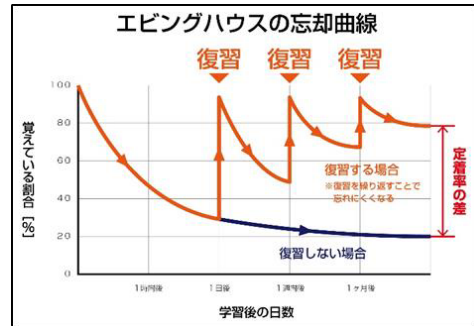
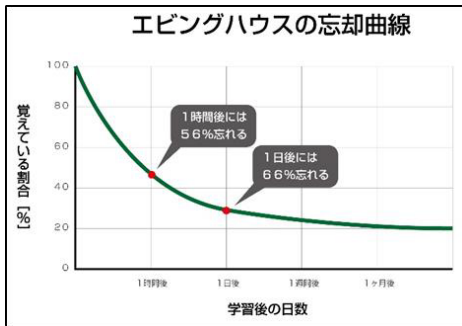
県新入生調査の県比の比較【県 100 とする学力】

	国語	算数	崩壊学年
A小	76	79	小3
B小	82	84	小4
C小	93	92	小5
D小	97	93	小6
E小	102	104	安定
F小	117	127	充実

1 学力と人間関係は関係ないと思っていませんか？

皆の学力が伸びるように互いに学び合い、教え合い、皆が居心地がよい学級、学校にしましょう。(イジメはダメ！)

第2問 人間の記憶は、どれくらいの時間で消えていく？



2 ノートをとって、ドリルやワークを埋めて勉強したと思っていませんか？

何も見ずに解けるようになったか、時間が経っても忘れていないか、自力で確かめる学習習慣を身に付けましょう。(インプットとアウトプットを意識した学習)

第3問 1日何時間くらいゲームをしたり、SNSなどで動画をみていますか？

岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」 (%)

利用時間	小学校5年生								中学校2年生							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
3h以上	7	6	21	19	28	24	28	38	11	23	23	27	28	30	36	41
1h未満	78	77	36	40	31	36	33	13	54	25	26	21	18	27	17	5

3 テレビ、ゲーム、スマホなどに振り回される生活になっていませんか？ (早寝早起き朝ごはん) 自分の気持ちや言動を自らコントロールして、規則正しい充実した生活習慣を身に付けましょう。

第4問 何のために学校や家で勉強していますか？

(①) (②)

4 何のために学習しているのか考えることがありますか？ (何事も土台が大切！)

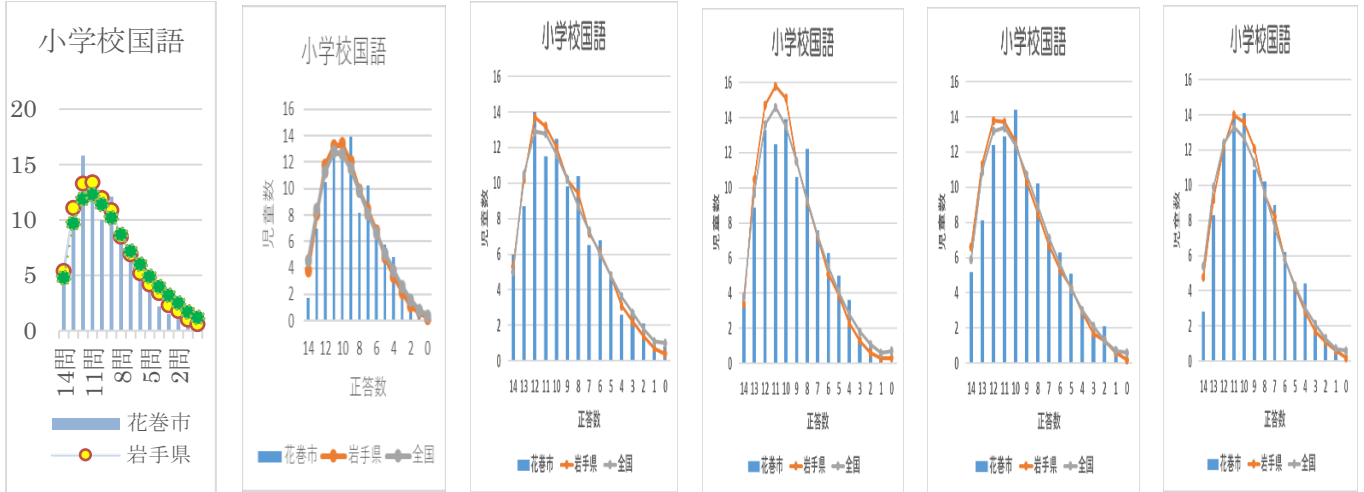
小・中学校の学びは運動でいう基礎体力のようなもの！基礎体力が付くと将来の選択肢は広がり、やり遂げた成功体験が増えると自信をもって生きる力になります。

学力低下の正体 全国学調教科毎正答数別児童数の分布【小学校】

課題が顕在化した数年間、「正答数別児童生徒の分布」はすべての校種教科で上位層減少・下位層増加。

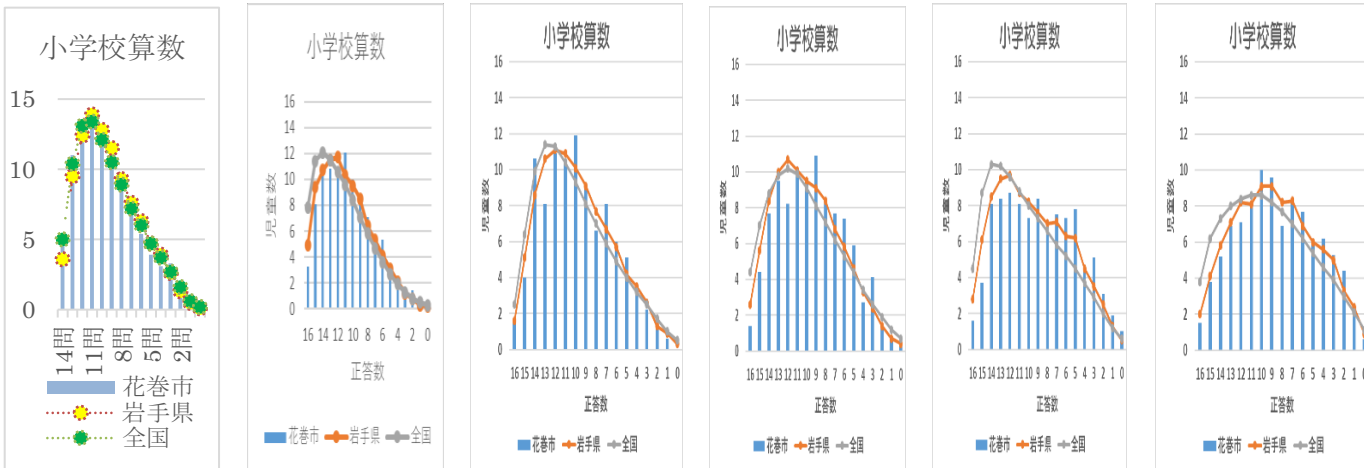
●国語

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査



●算数

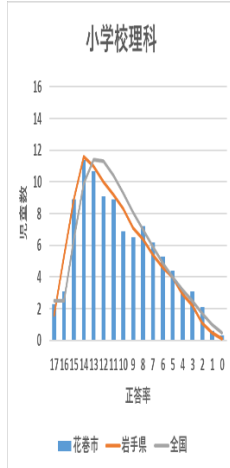
令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査



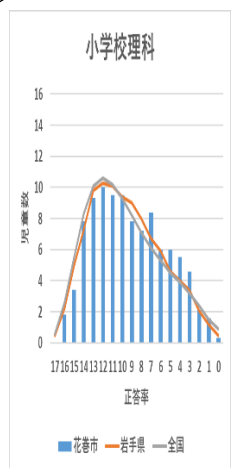
●理科

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査
 未実施 未実施 未実施 未実施 未実施

花巻市では、どの教科も、年々、学力上位の児童数が減り、学力下位の児童数が増え続けています。特に、算数で目立ちますが、近年は得意だった国語や理科でも同じような状況が見られます。



このことは、全国や県に比べて、花巻市の児童一人一人の学力が伸びていない、年々、落ちてきているということです。大変大きな問題です。



>>> 3年後 >>>

身に付けてお得な中学校期の生活・学習習慣

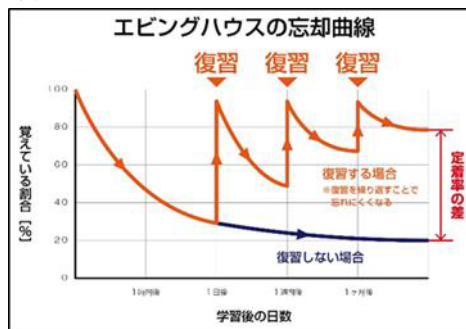
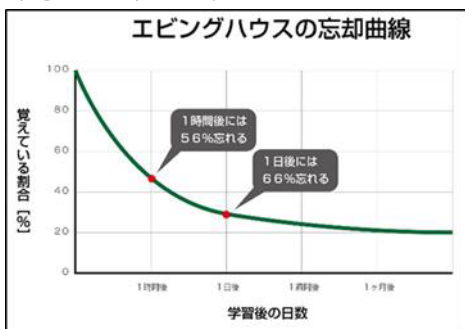
花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

第1問 1 (1) $2 + (-4)$ を計算しなさい。(4点) 答 _____

1 受験勉強はまだまだ先の話と思いませんか？

中1の学習内容はそのまま入試問題に出題されます。受験勉強はすでに中1から始まっていることを心に留め置きましょう。(学級の居心地は大切。イジメはダメ！)

第2問 人間の記憶は、どれくらいの時間で消えていく？



2 授業ノートを取り家庭学習でワークを埋めて勉強した気になっていませんか？

自力で問題を解けるようになったか、時間が経っても忘れてはいないか、何度も何度も確かめて、粘り強く取り組むことを心がけましょう。

(インプットとアウトプットを意識した学習)

第3問 1日何時間くらいゲームをしたり、SNSなどで動画をみていますか？

岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」(%)

利用時間	小学校5年生								中学校2年生							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
3h以上	7	6	21	19	28	24	28	38	11	23	23	27	28	30	36	41
1h未満	78	77	36	40	31	36	33	13	54	25	26	21	18	27	17	5

3 テレビ、ゲーム、スマホなどに支配された生活になっていませんか？(睡眠不足はダメ！)

限りある自分の時間をどのように使うのか、決断して実行できるのは自分です。節度ある生活を心がけて、自分をコントロールする力を身に付けましょう。

第4問 何のために学校や家で勉強していますか？

(① _____) (② _____)

4 自分の進路や学習の目的を考えたことがありますか？(何事も土台が大切！)

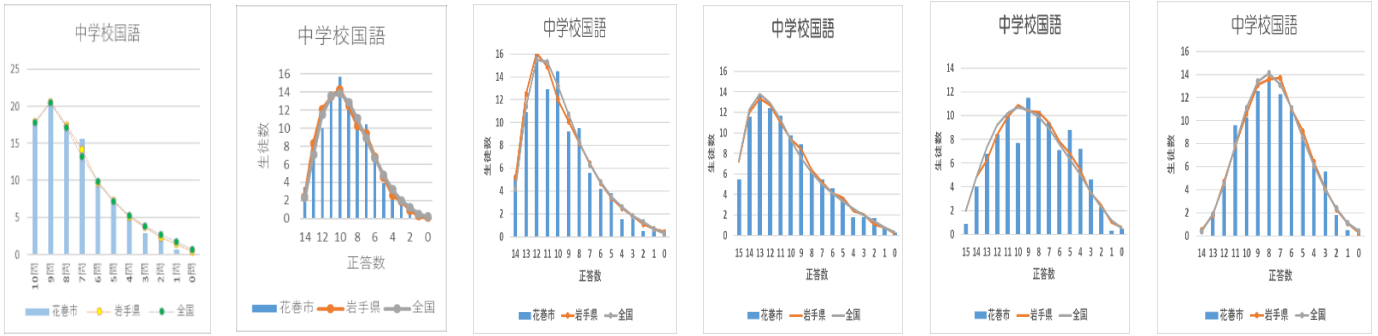
人生に役立たない学びは一つもありません。学びは将来の選択肢を広げます。やり遂げた体験は自信になります。自分の進路や学習の目的を意識しましょう。

学力低下の正体 全国学調教科毎正答数別生徒数の分布【中学校】

課題が顕在化した数年間、「正答数別児童生徒の分布」はすべての校種教科で上位層減少・下位層増加。

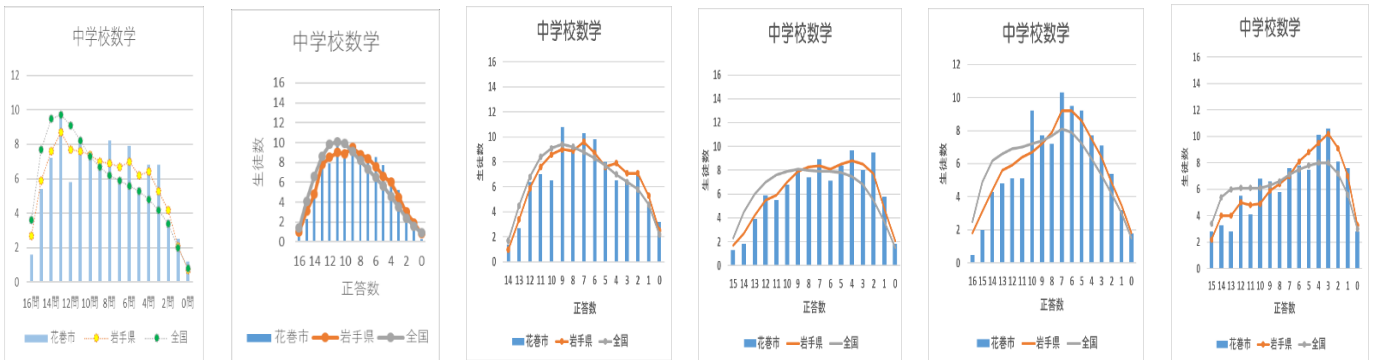
●国語

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査



●数学

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査



●理科

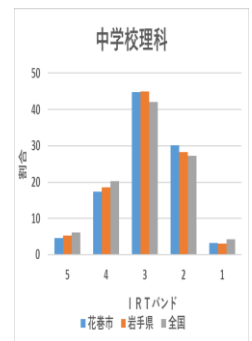
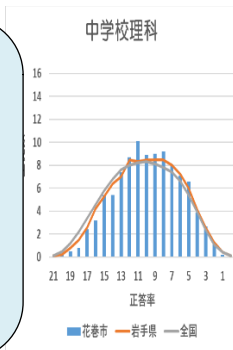
令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査

未実施

未実施

未実施

未実施



>>> 3年後 >>>

※ 令和7年度調査の中学校理科はIRTバンド分布グラフで表示。横軸はIRTバンド、縦軸は割合。

●英語

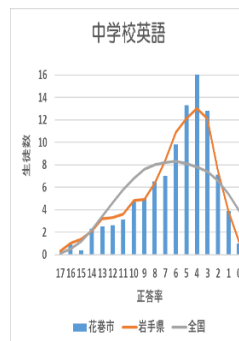
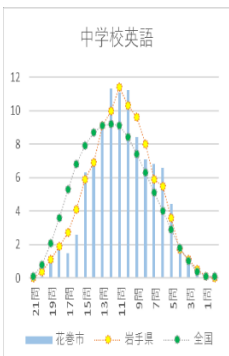
令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査 令和7年度調査

未実施

未実施

未実施

未実施



>>> 4年後 >>>

このことは、全国や県に比べて、花巻市の生徒一人一人の学力が伸びていない、年々、落ちてきているということです。大変大きな問題です。

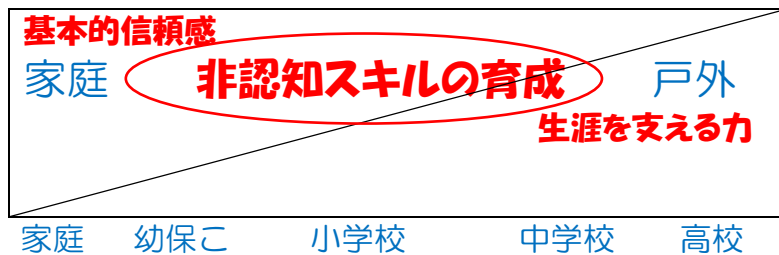
家庭で育む子どもが得する生活学習習慣

花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

第1問 子どもの発育・成長はどうなっている？ 「非認知能力」って何？

年齢 0~2 3~5 6~12 13~15 16~18……(歳)

依存
他律



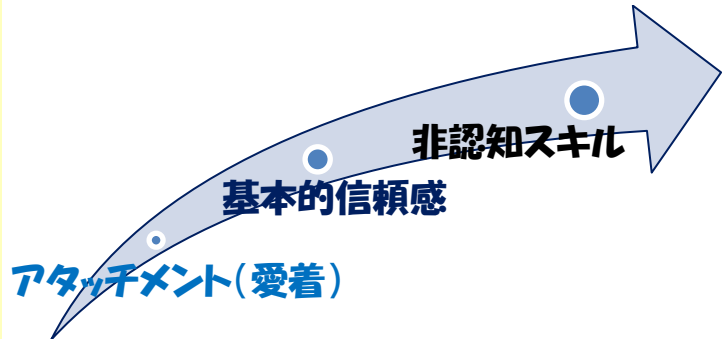
自立
自律

第2問 近年取りざたされる「経済格差→学力格差」は本当？ その解決策は？

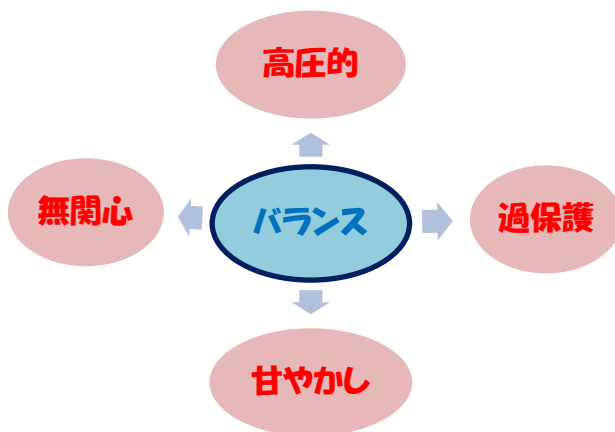
ポイントは非認知スキルの育成

家庭環境が学力に与える影響

- (1) 規則的な生活習慣
朝食、テレビ・ゲーム時間のルール
- (2) 非認知スキルを高める動きかけ
自制心、意欲、忍耐力を身に付けるため、①よいところを褒めて自信、②努力、やり抜くことの大切さ、③自分と異なる意見や少数意見のよさを生かし折り合い、④地域ボランティアに活動等への参加等
- (3) 知的好奇心の刺激
読み聞かせ、本や新聞、外国語や外国文化等
- (4) しっかりした家庭学習
計画的学習、復習等
- (5) 前提として、会話が深い
学校、友達、将来、世の中の出来事
学校行事や地域活動に親子で参加等



第3問 最近耳にする「子育て世帯の時間貧困」とは？ その解決策は？



米国マサチューセッツ州のお母さんの13歳の息子との携帯電話使用契約書の一部

- これは私（保護者）の携帯です。私が経費を支払っています。あなた（息子）に貸しているものです。私って優しいでしょ。
- パスワードは必ず私に報告すること。
- これは電話です。鳴ったら必ず出ること。礼儀正しく「こんにちは」と言いなさい。発信者が「パパ」「ママ」だったら必ず出ること。絶対に。
- 学校がある日は午後7時30分に携帯を私に返却します。週末は午後9時に返却します。携帯は次の朝の7時30分まで電源オフになります。友だちの親が直接出る固定電話で電話できないような相手なら、その人には電話もSNSもしないこと。
- アイフォンはあなたと一緒に学校には行けません。SNSする子とは直接お話ししなさい。人生のスキルです。
- ……

子どもと関わる量が足りないなら、子どもと関わる質を高めましょう！

第4問 受験、高校入試がゴール？子どもが独立した後の人生こそゴールでは！

幼少期からの子育て・教育で自立・自律・コミュ力を育んでいますか？

生涯に影響

健康維持・認知能力育成・問題回避などで生活安定

(問題とは；犯罪、いじめ、ハラスメント、DV、虐待など)

土台

我慢

頑張り

コミュニケーション

非認知能力

自分と向き合う力 自分を高める力 人とかかわる力

自制心
忍耐力
レジリエンスなど

自己肯定感
自己有能感
挑戦意欲など

コミュニケーション能力
共感する力
思いやりなど

●学童期以降の手立て●

意識づけと行動を変える(マンガラート活用など)
笑顔、あいさつ、褒め言葉、ねぎらい
よかった探してプラスのストローク(存在認知)

学童期以降でも
非認知能力は
伸ばせます

●幼児期～学童期くらいまでの手立て●

自主的で夢中になれる遊び、読み聞かせでアタッチメント(愛着)形成は最強、
早寝早起きなど規則正しい生活習慣、アートやスポーツ、褒める、など、
リフレーミング(落ち着きがない→エネルギーッシュ、注意散漫→一つにとらわれない
等視点を変えて子どもをみること)

土台

基本的信頼感

アタッチメント(愛着)で子どもの安心基地

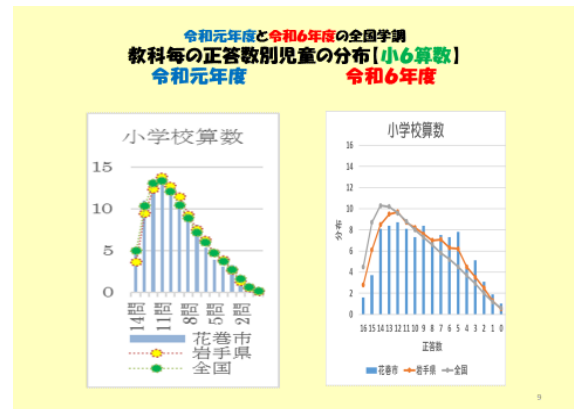
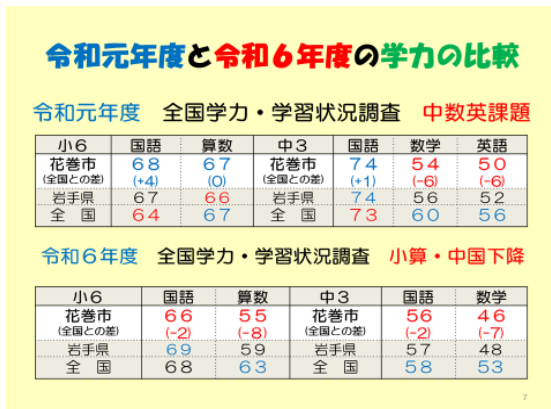
●妊娠中～2歳くらいまでの手立て●

できるだけ子どもの近くにおいて、子どもの求めに応じてすぐに養育にあたる
子どもに優しく触れる、抱っこする、子どもに穏やかに声をかける
子どもをきちんと見て微笑む、子どもの話を頷きながら聞く

結果が変わる授業改善と元気が出る校内研究

花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

第1問 児童生徒の学力分布が変化。実態を把握して指導に生かしていますか？



第2問 学力差が拡大。下位の子も上位の子も伸ばす指導にするために？

《授業を充実するための視点 まずは「不易」を要チェック》
授業開始のあいさつ、前時までの想起、学習用具、板書、学習課題、学習方法、発問、一人学び、学び合い、発言・発表、家庭学習、次時の予告、etc

- 《授業を充実するための視点 次はいよいよ「流行」の活用》
- ・ 個別最適な学び 子どもに委ねて習熟に応じた個別の学び
 - ・ 協働的な学び 個別最適な学びと往還し、チームで主体的・対話的で深い学び
 - ・ 見取り・評価 確認テストで指導と評価の一体化、家庭学習との連動
 - ・ 目指すサイクル 単元テスト結果の向上 ➡ 子どもの学習意欲 ➡ 保護者の信頼

第3問 経験も特長も異なる教員。成果を上げる組織の挑戦をどう進める？

《成果を生み出している学校の姿とは》
人間関係が良好で、楽しい雰囲気の中で、協力して成果を生み出そうと努力する空気
児童生徒、保護者、地域の信頼が厚く、効率的・効果的に仕事をしている教職員組織
立ち居振る舞いや表情・言動がさわやか、失敗を恐れずチャレンジを続ける児童生徒
児童生徒、保護者、地域等の困難事案に、率先垂範、迅速対応できるリーダーの存在

《成果を生み出す学校になるためには》
一人一研、教科等部会を廃止した今 教員研修・校内研究会の在り方～OJTの推進
成果が伴わない今 日常的に結果やゴールを意識する教職員の実践～焦点化と数値化
成果と課題の見極め 指導力向上～それぞれが受け持つ児童生徒の姿として検証発信
豊富な経験、多様な理論に裏打ちされた言動で、責任と覚悟があるブレないリーダー

第4問 先だって若しくは同時進行でやるべきこと。学級・集団づくり？

求められている授業を知り実践するための資料

1 求められている授業を知る

現行学習指導要領には、「内容（何を学ぶか）」に加え、学びで育むべき「資質・能力（何ができるようになるか）」が示されています。次の3つです。

- ① 生きて働く「知識及び技能」
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

学校、教員等、我々の使命は、3つの「資質・能力」を育む授業改善です。授業改善の視点は3つです。

- ① 学ぶことに興味、関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」
- ② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

「個別最適な学び」は、多様化・複雑化するすべての子どもたちに、「主体的・対話的で深い学び」を通じて3つの「資質・能力」を育成するための手立てです。「協働的な学び」は、「個別最適な学び」が孤立した学びに陥らないようにするための手立てであり、一体的な充実が大切です。

2 求められている授業を実践する

さて、一人一人の子どもに応じた教育はいつの時代でも重視されてきましたが、教師が多様化・複雑化する子どもたち一人一人に合った教材をすべての教科等で事前に用意し、限られた授業時間で多くの子どもの指導を同時に担う状況を想像すると、現実には実現困難と感じるかもしれません。

そこで、教師がきめ細かに指導・支援することに加えて、子どもたちが自分の学習状況を把握し、自分に必要な学習の内容・仕方を考え、自主的・自発的に学習に取り組み、自分の学習を調整できるようにする力を育むことが必要になります。

その際、「教師が教える」ことが悪で、「子どもに委ねる」ことが善である、という二項対立的な考え方は正しくありません。教師の力量・特性、子どもの現状・実態、教科の単元・内容を踏まえて、すべての子どもに3つの「資質・能力」を育成するためには、どのような学習過程・学習方法・学習形態が適しているのか、吟味して授業づくりを進めることが肝要です。

1 単位時間に課題を設定する時間、見通しを立てる時間、個別に学ぶ時間、他者との対話を通じて学ぶ時間、学びを深める時間、学びを振り返ったりまとめたりする時間一人一人の子どもの苦手を補い得意を伸ばす時間を盛り込むことは至難の業です。「子どもに委ねる」学びは、単元を単位に進めることが不可欠です。

今、花巻市が目指している授業改善

一単位時間に組み込んだ「指導と評価を一体化した習熟に応じた個別最適化（委ねる学び）」
既に一部学校で実績 学校ぐるみの改善取組 = 学力調査正答率 + 児童生徒質問紙調査
県・全国比上昇 肯定的回答上昇
国が目指す「自立した学習者の育成」に向け、児童生徒の発達段階や実態、教員のスキル等に応じて
今後、単元レベルで「学ぶ内容、学び方、確かめ方等に個別最適化（委ねる学び）」

【参考資料】

令和7年度花巻市教育研究所研究発表会講評

本研究発表会の価値と意義を中心に5分お話しさせていただきます。

保幼こ各園では遊びを通して自立心等「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」10項目を育むこと、小中各校では授業を通して「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性」3つの資質・能力を身に付けることを目指します。これら10項目、3つの資質・能力は子どもの遊び、学びの姿を見る窓といえますが、幼児期10項目は「非認知能力」と捉えることができ、主に3つの資質・能力の「学びに向かう力・人間性」につながります。令和4年度から全国展開される「架け橋期のカリキュラム」は、もっとも段差の大きい5歳児と小1の円滑なつながりを追求するもので、一体化した時間・空間で行う絵本読み聞かせの体験が国語の言語の土台に、数や量に関わる遊びの体験が算数の数量の基盤になります。小学校入学後、生活科に園の遊びの原型を留めつつ、焦点化された内容で学びを進める教科学習が増え、体系化された知識・技能の定着が求められるようになります。学年進行とともに難しくなり量も増える「知識・技能」の習得にバイアスがかかるようになると、子どもの自律性、自主性、社会性等「非認知能力」の影響の大きさに改めて気付かされます。そして諸調査の結果は、「非認知能力」の育成こそが当市の問題解決策の1つであることを示しています。

本年度、研究所の取組で重視したことが2つあります。1つは、各園の「先生の関わり」「環境づくり」で育む「非認知能力」を各校の授業を支える有力な手立てとして着目したこと、「非認知能力」は学力を育むがその逆はないと指摘されるように、「学級づくり」「授業づくり」を一体化してこそ学びの成果が得られるからです。もう1つは、研究主任の先生方のお力添えで本研究発表会と各園各校の研究会を連動一体化したこと、子どもの成長、発達は連続し、園、校種をまたいで子どもの発達を知り関わるのが大切だからです。本年度の全国学調、県学調の結果、「学級力」「授業力」「家庭力」向上を柱とする「学力向上アクションプラン」の取組で正答率や意識調査がプラスに動き始めました。各園各校の先生方の日々の実践と奮闘の賜と深く感謝申し上げます。一方、根幹的問題が解決されたと考えるのは早計で、各園各校の取組で垣間見られる変容が一過性とならぬよう、本日も発表いただいた研究員の先生方の実践研究や各園各校でご協議いただいた改善策を今後活かすことが求められます。

許容社会の弱点の克服が必要と30代で教育関係の仕事に就いた私の持論は、「若者の教育に際しては、彼らが成長途上にあり未成熟であることを認識しなくてはならない。若者は、自由とともに管理、コントロールを求めている。このバランスを保ち若者と接しなければ、若者は幸せな成熟した大人に成長することはできない。自由と規律の調和、規律に裏付けられた自由を実現することが、若者を取り巻く我々大人に課せられた役割であり使命である。」ということです。大人も子どもも、人は満足によって意欲が出ます。仕事・勉強もスポーツ・文化活動も、遠い理想を追いかけるより身近な目標達成を繰り返す方がやる気につながります。他の子どもとの比較ではなくその子の成長を、大人のものさしではなくその子の発達に應じ、時に認め時に励ます親や教師のきめ細かな関わりが、小さな満足でも自分を褒め、その積み重ねが励み、自信となり、やがて自分を適切に評価して前に進む力を育みます。これが依存他律から自主自律に向けた子どもの歩みです。

6年ぶりに復活した「冬季ふくろう講座」には、ライズ株式会社の協力を得て行った「eライブラリアドバンス講習会」に25名、本日も発表をいただいた授業力向上研究班が講師を務めた「学級、授業づくり」講座に過去最大43名の先生方の参加希望をいただきました。研修意欲旺盛な若い先生方が増え、10年来の課題解決に向けて新たな一歩を踏み出す下地が整いつつあります。令和8年度当市児童生徒の教育を充実するためには、3学期、今基盤を作っておくことが大切です。本日の研修を礎の一つに、どうか皆様の一層のお力添えをお願いします。最後に、本日も発表いただいた研究員の先生方、各園各校で熱心にご協議いただいた先生方、手前味噌ではありますが、当研究所主務を務める矢吹指導主事のご労苦に敬意を表し感謝申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

2026年1月21日 花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

令和7年度花巻市教育研究所研究発表会講評要点

子どもの遊び・学びの姿を見る窓

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目（次ページ参照）

= 「非認知能力」の育成

3つの資質・能力「知識・技能」「思考・判断・表現力」

「学びに向かう力・人間性」

「非認知能力」は学力を育むが逆はない

「架け橋期のカリキュラム」 5歳児と小1のつなぎ

「非認知能力」育成の継承

校種・学年進行で「知識・技能」にバイアス

「非認知能力」の存在大

研究所の取組で重視したこと二点

「非認知能力」の育成 教科等指導を支える有力な力として着目

子どもの成長・発達は連続→研究発表会と幼保子小中研究会を連動一体化

全国学調・県学調の結果

R6～正答率、意識調査プラス傾向

研究員の実践研究、各園各校の改善策の賜

私たち大人の役割

自由と規律の調和→依存他律から自主自律へ

3学期 令和8年度の基盤づくり

2026年1月21日 花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

【参考】「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(1) 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

学級・集団づくりアイテム講座

花巻市教育委員会 学校教育課 伊藤信彦

まずはご自身の心の中と受け持っているクラスの現状を振り返ってみましょう。笑顔が消えて心身ともに疲れ果てている自分はいませんか。年度初めのやる気満々の子どもの姿が見られたクラスが様変わりしてはいませんか。本講座は、すっかり落ち込んでしまっている自分自身の回復と、地が出てしまっている子どもの立て直し、いわばリフレッシュとリセットを目的とする講座です。

話は変わりますが、皆さんは自分が圧の強い教師といますか。それとも圧の弱い教師といますか。自問してみてください。スタイルを変えてくださいと申しあげようとしているではありません。圧が強いと思っている教師が意識してほしいこと、圧が弱いと思っている教師が意識してほしいことを知っていただき、自分にフィットするスタイルを見つけてほしいと願っています。

また、学級について考えてほしいこともあります。静かなクラスは良い学級で、騒がしいクラスは悪い学級なのでしょうか？授業の目当てを達成するために盛り上がり、集中すべきところで切り替えられるクラスは良い騒がしさがある学級、授業の目当てと関係ない勝手なおしゃべりがあり、他の人の発表を聞かないで自己中心的な言動があるクラスは悪い騒がしさがある学級と、私は考えています。

さて、悪い騒がしさがある学級、良い騒がしさがある学級、良い静けさがある学級、悪い静けさがある学級、皆さんが受け持っている学級はどれに近い学級でしょうか。実は、圧が強いと自己診断した先生には悪い静けさがある学級になってはいないか、圧が弱いと自己診断した先生には悪い騒がしさがある学級になってはいないかチェックしてほしいと思います。

以下では、良い騒がしさと良い静けさを兼ね備えた学級づくりの手立てについて考えていきます。自分には無理、そんなことは絶対にありません。大丈夫です。意識して実践を積み重ねれば、必ず良い方向に向かい始めます。それでは、さっそく始めましょう。まずは、悪い騒がしさがある学級のサインと改善策を見てみましょう。

1 学級崩壊サインからの手立て

(1) 子ども編

崩壊サイン① 机・椅子が乱雑でゴミが散乱している ➡改善策：教師が放課後整頓・清掃、授業開始前に整頓・清掃 ➡クラスの環境や雰囲気がクリーンになります

崩壊サイン② 乱暴・身勝手な言動をする子どもたちが増えている ➡改善策：楽しそうに子どもたちのそばにいる、笑顔と一緒に子どもたちと遊ぶ ➡子どもたちとの信頼のパイプづくりでササクレが消えていきます

崩壊サイン③ 子どもの字が雑で「面倒くさっ」を連発する ➡改善策：事前予告をしてやり直しを徹底する、その際やり直しの量は少なくする ➡できたことを褒め続けると変化し始めます

(2) 教師編

机がずれていてもゴミが落ちていても気にしない教師、モグラたたき指導に明け暮れる教師、脊髄反射的に叱ってしまう教師、時と場と相手と叱る基準があいまいな教師、より大きな声で対抗してしまう教師、子ども同士で注意させ合う教師（殺伐とした雰囲気になることがあります）、授業で早く終わった人に読書させる教師（自分さえよければよいという子どもが増えることがあります）になっていないか振り返り、意識してみる

2 学級経営3つのルールと3つの心がけ

(1) 子ども編

こだわりルール① ご機嫌教師をベースにして、必要に応じ不機嫌教師を演じ分けて子どもたちと接する

こだわりルール② 集団生活する学級のルールとして、「発表する人は立つ」「誰か立ったら手を止めて立っている人を見る」「誰かが発表しているときはしゃべらない」（立つと注目しやすい、立たなくてもできる）

こだわりルール③ 子どもができた量を評価するのではなく、子ども一人一人の伸びた量を評価する

(2) 教師編

- 心がけ① 子どもを好きになる、いいところ探し、具体的に掘り下げる
- 心がけ② 小さく叱る・小さな声で叱る・個別に叱る（プライドを守る、恥をかかせない）、無言で叱る、叱らずに済む手立てを講じる
- 心がけ③ 笑顔と温かい言葉がけのシャワーを浴びせる、笑顔と温かい言葉の連鎖が生まれる

3 学級集団づくりのアイテム

列指名で発表に慣れさせる、選択肢指名で答えやすいように聞くなど、発表できたことをよしとする取組を低学年で行う、その他リベンジ指名、天井指名、隣の子指名等多様な手法を試す
ペアトークは最初短く投げっぱなし発表なし、切り替えを評価しつつ慣れてきたなら発表あり
班活動は子どもと一緒に進め方づくり、時間配分、司会、記録等役割分担等
ワールドカフェ～課題について班での話し合い➡席替えで他の班の人との交流➡2回目席替えでまだ話していない人との交流➡元の班で他の班の人との話し合いを伝え合う
ジクソー学習～班内で異なるテーマで個別学習➡他班の同じテーマの人と交流➡元班で担当テーマでプレゼン、例～武将のすごいところ等の調べ学習
学期末等の節目で学級がんばりベストテン「1位3点、2位2点、3位1点」集計して学級通信で紹介、学期末等の節目で個人がんばり紹介「〇〇でがんばったのはだーれだ？」

4 子どもの素地づくり

(1) 「個別最適な学び」に向けて個の基盤を作る取組例

ノート指導、日付と本時主発問（黄色四角囲み）は指示がなくても必ず写す
丁寧に書く指導、詩や2文字書きで徹底訓練、定規を使う
書く力を付ける指導、振り返りタイムで1分1行を目標に書く体力づくり
要約力の育成、「桃太郎」「犬さるキジ」「鬼退治」等3つのキーワードで20文字あらずじ

(2) 「協働的な学び」に向けて子どもたちをつなげるゲーム例

- ゲーム① 「仲間探しゲーム」、「好きな果物」「好きな色」…、2分、セーフ・アウト
- ゲーム② 「言うこと一緒・やること一緒」「言うこと反対やること反対」「言うこと一緒やること反対」「言うこと反対やること一緒」
- ゲーム③ 「餃子じゃんけん」、3人1組、グー肉、チョキニラ、パー皮、そろったなら「いただきます」、揃わなかったら「お手上げだー」

5 授業づくり

(1) 基本編

毎日の授業が学級づくり、目標が明確で子どもたちがその意味を理解している、クラス全員が目標達成に向けて役割を持ち関わっている、教師が集団としての学びを意識して授業設計している
音読等クラス全員で声を出す、一部の人だけ・けだるさを払拭、丸投げ指導は回避

(2) 中級編

単元0校時でできるだけ生活に密着した教材を工夫して単元の肝に係る「見方・考え方」を育む授業、1校時以降は通常どおりの授業でも個人差が縮小
「知識・技能」は3つの資質の一つ、「知識・技能」だけが低く「思考・判断・表現力」や「学びに向かう力、人間性」だけが育つことがあるのか、数字に表れる学力も重視する授業設計

(3) 上級編

- 余白のある授業、主体的に動き出す、あえてまとめをしない授業、追求・探求の継続
- ① 問いを工夫する
複数の「見方・考え方」や答えが存在する「開かれた問い」を用いることで子どもたちの思考を広げる
 - ② 教材提示後に語らない
教師が説明しないことで子どもたちが自由に感じ考える時間を意図的に設ける、沈黙の中にこそ深い思索が生まれる

- ③ まとめをしない
あえてモヤモヤを残して終わることで子どもたちの追求心・探求心を持続させる
- ④ 活動の選択肢を用意する
調べ学習や表現活動などにおいて複数の方法や視点を提示して自分で選択できるようにすることで主体的な学びを促す

6 その他面白授業アイテムを増やす

タオルの「を」、干支・国花・国獣、九の段の九九
理科室、4年11月、走らない、触らない

7 その他大人の世界

(1) 保護者編

保護者との関わり、問題対処第一報は子どもが家に帰る前にできるだけ早く、後手になると言い訳、余白を残す話し方、断定せずに「…あるかもしれません」

(2) 教師編

心の体力、どんなことも笑って受け止められるくらいの心のゆとりをもって業務

【参考文献】

週刊教育資料 2024-2025 連載「若手教師に伝えたい学級・授業づくり虎の巻」

兵庫県・芦屋市立浜風小学校長 俵原正仁著